

つばめ通信

10月号



令和6年10月11日

朝雲分けて 燕帰りぬ プラタスの里に 幾千里 日本生まれの子を励まして われらスラバヤの子 燕に学ぶ 努力の証

3つの心

校長 福田 栄喜

全校朝会で「一年の半分が終わりました。一年を半分に分けると、4月から9月までの前期と10月から3月までの後期という分け方をすることがあります。このような分け方をすると、10月から後期ということになります。みなさんは、前期に勉強をして分かったことやできるようになったことがたくさんあると思います。後期も前期に引き続き頑張ることや新しく挑戦したいことなど、自分の目標（めあて）に向かって一生懸命に頑張りましょう。そして、『挨拶をしっかりとすることや自分の気持ちを素直に伝えること』『友達や家族の皆さんと仲良く過ごすこと』『勉強や運動など、最後まであきらめないで頑張ること』を後期も頑張りましょう。」と話しました。

次に、3つの心について話しました。

■「はい」という素直な心

「はい」という返事には気持ちが入ります。「よし、がんばろう」という時の「はい」と、いやいやながらやろうとする時の「はい」は聞いていて分かります。名前を呼ばれたときの返事や何か頼まれたときの返事も「はい」です。「はい」という返事に素直な心が入ると、いろいろなことが上手にできることが多いです。なぜなら、素直にがんばってやってみようとする人には、見えない力が味方してくれるからです。素直な心が入った「はい」の返事は、自分を高めてくれます。

■「すみません」という反省の心

私たちは、みんな失敗することがあります。やってはいけないことをしてしまうこともあります。友達に迷惑をかけてしまうこともあります。そのようなときは「すみません」と謝ることが大切です。反省の心が大切です。素直に反省している人を見ると、許してあげる気持ちになります。その人が次には失敗しないように手伝ってあげようとする気持ちになります。反省する気持ちの入った「すみません」は、やり直しの出発点です。

■「ありがとう」という感謝の心

世の中で一番幸せな人は、感謝の心をもっている人だといわれています。「ありがとう」の気持ちをもてば人は優しくなれます。「ありがとう」と言われたら、人は幸せな気持ちになれます。「ありがとう」という感謝の気持ちは、自分の心も温かくしてくれる魔法の言葉です。

子どもたちには、3つの心〈素直な心、反省の心、感謝の心〉を大切にしてほしいと思います。保護者の皆様には、引き続き本校の教育活動に温かいご支援とご協力をいただけますよう、よろしくお願ひいたします。